

# 令和3年度 学校評価 自己評価及び学校関係者評価

学校名 坂戸市立片柳小学校

○「自己評価」及び「学校関係者評価委員評価」の欄には、A～Dを記入してください。

評価 A:よくできている B:概ねできている C:あまりできていない D:できていない

○「自己評価についての評価の説明及び学校の考え」の欄には、理由及び自己評価の結果をどのように受け止めているかを記入ください。

領域	NO	評価項目	自己評価	自己評価についての評価の説明及び学校の考え	学校関係者評価	学校関係者評価委員会の説明
組織・運営	1	学校は、特色ある学校づくりを目指し、組織的・計画的に取り組んでいる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の感染防止対策について、家庭や地域と連携を図り、多大なるご理解とご協力のもと、できる限りの対策を行った。</li> <li>・コロナ禍での工夫や改善及び新たな取組を行う中で、感染防止と両立させた教育活動を行った。</li> <li>・感染防止を鑑み、制限された中での教育活動であるため、以前と同様の取組は難しい面が多かった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校側からの説明は充分あるが、この2年間コロナ禍に於いて保護者が、学校内、児童を見学する機会が無く、保護者まで理解が届いていない。</li> <li>・行事 他校との交流 是非続けて欲しい。</li> <li>・感染防止対策の努力が見られた。</li> <li>・学校だより「やなぎの子」で写真を掲載しわかりやすく、保護者に伝えている。特にお話朝会(校長講話)の内容を保護者に知らせ親子で共有することで、親子での会話につながるのではと感じた。</li> <li>・特別活動の取り組みが、特色ある学校づくりにつながっている。</li> <li>・学校行事の重要性を改めて実感している。感染防止に配慮した行事運営が参考になった。</li> <li>・田んぼに囲まれている特色を生かした米作り体験教室を行っているため。</li> <li>・隣接している坂戸高校との連携事業を進められるとなおよいと思う。</li> <li>・学級会活動は片柳小の特色ある取り組みであるとらえています。</li> </ul>
	2	学校は、災害、事故やトラブルに対して、組織的に迅速に対応している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害や事故等のトラブルに対して、管理職を中心に該当する分掌主任や学年担任と連携を図り解決に取り組んだ。</li> <li>・災害やトラブル発生時の指示系統や解決に向けた取組については、組織的として各分掌主任を中心に迅速な対応ができ、課題についても教職員間での共有ができた。</li> <li>・家庭や地域との連携を更に深め、協力体制を強化に取り組んでいく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の下校時の指導把握と、よく対応されている。</li> <li>・保護者の資質の低下(利己主義 家庭教育の他人任せ等)が見られ、学校側の対応も大変に思う。</li> <li>・下校時に保護者の協力が欲しい。</li> <li>・危機管理マニュアルを配布し共通理解をし、高い危機管理意識のもと迅速に対応しているのうかがわれる。</li> <li>・課題点を教職員間で共有できたことはとても良い。</li> </ul>
	3	学校は、働き方改革を意識して、職員の勤務体制の改善を図っている。(共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校務支援システムの活用推進により、教職員間の情報交換を密にし、情報共有を強化した。</li> <li>・職員会議資料のデジタル化を進め、会議時間の削減を行った。</li> <li>・会議の進行や事前の資料提示等によって、会議時間の効率化を図り、働き方改革を進めた。</li> <li>・教材研究や各分掌及び行事等の業務において、より業務の精選や効率化を図るため、個々の教職員の意識向上を図る必要がある。</li> <li>・年休や特別休暇等について、今後も取得しやすい職場環境づくりの継続に取り組んでいく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が心身共に健康であることを願う。</li> <li>・教職員ここに生活のリズムがあるので、ワークライフバランスを考慮し、職員の勤務環境、生活環境に応じた勤務時間の管理が必要。</li> <li>・個々の働きやすい時間が可能であれば、成果や結果も上がるように思う。</li> <li>・職員数が多い現状の中、先生方が試行錯誤しながら(会議等の時間等の見直しなど)、熱心に教育活動を行っているのを強く感じた。「働き方改革」の難しさを感じます。</li> <li>・教員の負担の偏りは、本校でも同様である。退勤時間を意識した仕事計画は必要だが、全体で早期退勤を目指す、おためし週間をつくってはどうか。</li> <li>・紙によるやりとりが多く、集計事務が大変ではないでしょうか。これも、文字入力をしているようならば、PCメールでの回答のほうが事務は楽だと思います。</li> </ul>

				学校		
教育課程・学習	4	教員は、学力向上に向け、児童生徒にわかりやすく、工夫した授業をしている。(市共通項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の授業力向上に向けて、チェックシート等を活用するなど、個々の教員が授業づくりにおける課題を的確に把握し、授業改善に力を入れて取り組んだ。</li> <li>・児童がお互いに聴き合える関係づくりをもとに、学び合いの授業を継続し、学校全体として児童が主体的に取り組む授業の展開に取り組んだ。</li> <li>・コロナ禍でも様々な工夫を重ね、IT機器の活用も含め、児童の興味・関心を高めたわかりやすい授業づくりに取り組んだ。</li> <li>・今後も、学校全体の取組として教員一人一人の指導力を更に向上させていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参観する時間を頂き、教室内の様々な工夫、使い方、授業の進め方も興味深かった。</li> <li>・げんき教室開催時には、児童の学力に差があることを感じ、1人1人に添い、3か月ほどじっくり付き合うと成果が見られたが、現在は中止になり残念。放課後、宿題だけでも見てあげたい。</li> <li>・授業参観をさせていただき、やる気を引き出す工夫ある授業で、児童も、興味をもち意欲的に取り組んでいた。</li> <li>・コロナ禍の中、児童同士の関わりをどのようにもたせられるか、工夫しているのが感じられた。</li> <li>・教員のみなさまは授業改善にがんばってくれています。ありがとうございます。</li> <li>・ていねいな授業が展開されている。児童に寄り添った学びへの支援体制がある。</li> </ul>
	5	教員は、豊かな心を育む授業の充実を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日頃からどの授業においても、常に相手のことを思いやる気持ちを大切にするなど、豊かな心を育む授業の展開に取り組んだ。</li> <li>・道徳や特別活動において、円滑な人間関係づくりやコミュニケーション能力の向上に取り組み、豊かな心を培う授業の展開に取り組んだ。</li> <li>・学級会活動では、お互いに意見を聴き合う力や自分の思いをきちんと相手に伝える力を育てることに力を入れており、今後もこれらの活動に継続して取り組み、これらをもとに更に豊かな心を育む授業の充実を図っていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有事の時こそ、応用力、工夫力、人間力が求められる。大変なことではあるが、今までにない児童との係わりを、体験できると、ピンチをチャンスに変えるご指導に繋がることを期待。</li> <li>・いつの時代でもイジメの問題はある。しかし、言葉の魔法をかけ、対処可能もあるので、教職員のユーモアのある巧みな国語力は必要と思う。</li> <li>・授業参観をする中、支援が必要な児童に対し、丁寧に関わり指導しているのを感じた。学習面だけでなく心も育てていると感じた。</li> </ul>
	6	児童生徒は、落ち着いた態度で生活し、授業に取り組んでいる。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初に、学校全体として学習規律の確立や校内での過ごし方について全教職員で確認し、共通理解のもと指導に取り組んだ。</li> <li>・授業や学級会等を通して仲間との関係作りを大切に、全ての教育活動において、児童の自己肯定感を高める指導に力を入れて取り組んだ。</li> <li>・今後も継続して主体的に学習に取り組む姿勢や学ぶ意欲を高める授業づくりに取り組み、更に落ち着いた態度で授業に取り組む児童を育成していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的には落ち着いた態度で生活している。</li> <li>・挨拶をする子しない子の差が著しい。大人を含め、自ら挨拶できる子供の育成に期待したい。(本来は入学以前に家庭で育成することである)</li> <li>・評議員会で伺った時に、子ども達から気持ちの良い挨拶をしてくれた。</li> <li>・元気で健やかに生活している様子が伝わります。</li> <li>・あいさつは少しずつ減ってきているように感じます。</li> <li>・学校訪問、授業訪問をさせていただいたときに、児童の落ち着いた様子を観させていただきました。</li> </ul>
資質の向上	7	学校は、体罰や交通事故等の教職員事故や不祥事根絶のために意欲的に取り組んでいる。(市共通項目)	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に倫理確立委員会を行い、教職員不祥事等の事例をもとに、全教職員で共通理解のもと、不祥事を起こさない・起こさせないこと強く意識した職場環境づくりを行った。</li> <li>・日頃から教職員間でお互いに声をかけやすい雰囲気づくりを更に進め、全教職員が一丸となり、今後も継続して教職員の不祥事根絶に取り組んでいく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倫理委員会が実施されているとのことにて安心、そして有難く思う。</li> <li>・教職員がラフに話せたり相談しやすい環境が事故や不祥事防止につながるように思う。</li> <li>・片柳小学校は、伺った際、職員の方々が気持ちよく対応してくださり、良い雰囲気を感じる。</li> <li>・教員のみなさま、いつもがんばっていただきありがとうございます。</li> <li>・片柳小学校教職員の皆様の自己評価を評価させていただきます。</li> </ul>
	8	本校の教員は、児童生徒一人一人を認め大切に接している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す教職員像に、「児童の気持ちに寄り添い、良き伴走者となる教職員」を掲げ、すべての教育活動において、児童を褒めて、認めて、伸ばす指導に力を入れて取り組んだ。</li> <li>・個々の児童における様々な特性や課題を的確に把握し、教職員での共通理解のもと、個々の児童の状況に応じたきめ細かく丁寧な指導を行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員が児童1人1人にしっかり向き合うには、心のゆとりが必要だと思う。なすべき業務がただでさえ多くなっており、家庭でされなければならない躰やマナーまで、学校が負担し、その上、働き方改革による制約で心のゆとりが生まれるか懸念される。そんな中でも、片小の教職員は学年を問わず1人1人理解するよう頑張っていると思う。</li> <li>・授業参観をした際、担任の先生はクラス全体に対しても個々に対しても的確で温かい言葉をかけ、良い雰囲気をつくられている。</li> <li>・連携体制が確立されている。</li> <li>・学校訪問をさせて頂いた際、各先生方の児童への教育愛を持った関りが随所に観られた。</li> </ul>

				学校		
学習環境	9	学校は、特別支援教育体制の充実を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初より、全教職員での共通理解のもと、ユニバーサルデザインの視点に基づいた教育活動を行った。</li> <li>・特別支援教育の視点を、すべての学級や教育活動に取り入れ、全教職員で共通理解のもと、特別支援教育の充実を図っているが、今後に向けて更に組織的な体制の構築を進めていく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・片柳小には、特別支援学級があり、通常学級への行き来もあることにより、1年間の成長が素晴らしい。登下校も交じることができ、嬉しく思う。児童1人1人に添った細かいご指導の賜と思う。</li> <li>・特別支援学級では、教員が個々に合わせた言葉がけや指導を行い、片柳小学校に通える児童は幸せだと感じた。</li> <li>・ユニバーサルデザインの視点を生かした教室づくりが参考になる。</li> <li>・目的は「共生社会」の構築です。学校では「共に過ごす学校」という感じではないでしょうか。子どもに、いっしょに過ごすことある？と聞くと、まったくくないという回答でした。いっしょに過ごすための思いやりの仕方を知らないこと。うちの子が知らないだけなのかもしれませんが、親も状況を知らないで、何も教えることができません。</li> <li>・各教室のユニバーサルデザイン化され統一化された前面に片柳小学校の意識の高さを感じる。(職員の意見によりBにしました)</li> </ul>
	10	学校は、安心安全で機能的な教育環境整備に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通じて、新型コロナウイルス感染防止に取り組み、保護者との連携をもとに家庭の協力も得ながら、最大限の感染防止対策を行った。</li> <li>・日頃から、定期的かつ組織的に施設・設備等の安全点検を行い、瑕疵による事故を未然に防いだ。</li> <li>・安心安全な教育環境整備を保つため、教職員間の情報共有を密にし、児童の安全を最優先として迅速に施設・設備等の修繕を行った。</li> <li>・備品購入等においては、計画的に予算の運用を図ったが、予算の関係で早急な購入や買い替えが難しい面もあり、今後も計画的に購入を進め、予算増額等の要望等も含め、更に教育環境の整備を進めていく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度学校評価(教職員集計結果)の中にく廊下や階段の歩き方、トイレの使用方法…&gt;とあったが、同感。躰やマナーは事故やトラブルを未然に防ぐ術でもある。これも本来は家庭で行うべきものであると思う。</li> <li>・掲示してある児童の作品を見るのが楽しみである。1年生から6年生になるまでの発達段階がわかり、小学校6年間は大切な時間だと改めて感じた。</li> <li>・安心安全な学校づくりには教職員の協力が不可欠。予算的な問題もあるが、第一優先に改善できるものは改善してほしい。</li> </ul>
家庭・地域との連携	11	学校は開かれた学校づくりを目指し、家庭・地域社会に積極的に情報提供を行っている。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍における取組として、保護者が個別に授業を見学できるようにし、制限がある中で少しでも開かれた学校づくりとしての機会を設けた。</li> <li>・保護者が行事等を参観する機会に制限がある中で、学校だよりへの写真掲載を増やし、ホームページも活用しながら、積極的に教育活動の情報発信を行った。</li> <li>・必要に応じて、保護者や地域へのマメールを活用し、情報提供を行った。</li> <li>・コロナ禍において、家庭や地域への情報提供方法について、更に工夫や改善を重ねて取り組んでいく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マメールの連絡手段は有り難い。</li> <li>・「やなぎの子」は地域の回覧板で児童の様子が届いているので有効。</li> <li>・全体の保護者参観がなくなり、保護者同士の把握、交流はできていない。交流があれば子供同士のいさかきも防げる。</li> <li>・「やなぎの子」で、授業参観の方法を伝え、保護者の気持ちに添えていることがわかる。</li> <li>・私も片柳小学校のマメール登録をしているが、情報の発信が早く、保護者も安心だと感じる。</li> <li>・毎回、HPをたのしみに拝見、学校の様々な取組状況を理解できた。</li> <li>・校長先生の学校だより等での発信はとてもよいと思う。片柳小のことがよくわかります。</li> </ul>
	12	学校は、積極的に地域の人材を教育活動に活用し、家庭・地域と連携し子どもの問題解決を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の登下校においては、スクールガードリーダーや学校応援団長、PTAと連携を図り、安全に登下校できるよう、随時情報交換を行い、必要に応じ、児童への指導や保護者や地域への情報発信を行った。</li> <li>・コロナ禍で地域と行う教育活動(米作り体験、坂戸高校との連携事業等)が実施できなかった。来年度以降は、実施方法の工夫や見直しも図りながら、可能な範囲で実施できるような計画を検討していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守りの方々の高齢化が目立ち、体調が心配。片柳地区には各省庁、警察、消防等のOBが居住しているのでく専門家が講演をする&gt;など依頼するのはどうか。専門家は防犯、事故等への意識も高いので、見守りの協力を得やすいかもしれない。</li> <li>・入学時に登下校の見守りを交替制で保護者に依頼したい。</li> <li>・登下校時における安全面等で、保護者や地域の方の協力があることを知り、連携がとれていて素晴らしいと感じた。地域の方々にも守られており安心である。</li> <li>・支援員さんとの交流がほほえましい。地域の交流は子どもにとっても貴重な機会となる。(あいさつや会話)</li> <li>・コロナ禍ですので、仕方ない面が多々あるように思います。</li> </ul>
小中一貫教育	13	学校は、小中一貫教育の視点にたった教育活動を推進している。(市共通項目)	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桜中学校区としての取組では、今年度は本校が幹事校として夏季休業中に「オンラインでの3校合同研修会」を実施した。オンラインではあったが、外部講師による講話や指導を受け、共通理解を図ることができた。</li> <li>・来年度に向けて、他の教育活動についても、工夫や見直しを図りながら、コロナ禍でも可能な取組について検討していく。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・坂戸高校との交流は今後もぜひ続けて頂きたい。</li> <li>・小学校 交流 中学校の試みが何か欲しい。</li> <li>・コロナ禍の中、例年通りの小中連携がとれないことは、安心、安全を考えるとやむを得ないと思います。</li> <li>・各分掌でICTをつかって(ズーム等)連携がされるよう勧めていきたいと思います。</li> </ul>

				学校
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の皆様は児童にいつも、前からだけでなく、背中を見られています。人生の先輩として誇りをもって生きる姿をぜひとも示してほしいと思います。「大人を尊敬する気持」「ご先祖様や親を大切にすること」「生きる意味を伝えること」それが1人1人に備わったならば、自分より他の人をも大切にすることへつながるように思います。我々地域の者も頑張りますので「心に残る先生方の後ろ姿」を見せてあげてください。</li> <li>・授業を見学したかぎりでは各学級とも落ち着いた様子で騒ぐ児童は見られない。色々工夫しているのでしょうか、とても良かった。</li> <li>・コロナ禍で小中高との連携の活動もなかなか出来ないと思うが、地域の方との交流を深めたい気持ちは十分伝わってきます。</li> <li>・学校の方針及び行事日程など学校だよりを地域に定期的に回覧があるので、様子は十分な位分かる。</li> <li>・「やなぎの子」の発行を楽しみにしています。私自身も学ぶことばかりです。</li> <li>・小高連携については今後、打ち合わせをお願いします。</li> </ul>			